

学 ぶ 力 部 会

市民憲章とのかかわり（部として実現をめざしていく項目）

2 ところとからだをきたえ 文化のかおるまちをつくりましょう

15歳の浅江っ子像（育みたい児童像）

- 地域が大好きな子ども（郷土愛）
- 自分に自信がもてる子ども（自己肯定感）
- 人とつながり・ふれあう子ども（人間愛・絆）

学校教育目標

人権尊重を基盤とした、豊かな心と社会の変化に主体的に対応できる知恵を備え、
気づき・考え・行動できる「浅江っ子」の育成



1 部の視点

意欲的に学ぶ子どもの育成～地域の教育力を生かして～

2 令和元年度の取組の振り返り（○、▲）と令和2年度に向けて（☆）

校内部会

① サマースクールの実施に関する改善

- ・7月下旬に実施。内容については、夏休みのワークを中心に実施。安全確保のため、実施方法は現行通りとする。
- 多くの人が集まり、支援の手が行き届いた。
- ▲ボランティアの輪を広げたため、地域・保護者の方が想定より多く集まってしまった。問題の丸付けをするだけでは手持ち無沙汰になってしまった。

② 学力向上・家庭学習習慣

- ・宿題に関する保護者の意見が参考になることから、PTA 学級委員に宿題についてモニタリングする役割を依頼し、定期的に意見をもらうことで改善していくようにする。
- 各学年の自主勉強ノートを展示する、「ノート展」を年5回実施した。参観日に実施したため、多くの保護者の方に見ていただけた。

③ 情報モラル教育

- ・外部講師を呼び、高学年の児童と保護者・地域対象に情報モラル教育を実施することを、毎年のカリキュラムに入れ込む。（学級活動2として）
- 今年度は6年生を対象として情報モラル教育を実施した。毎年実施できるとよい。

④ 外国語活動の充実

- ・地域の方の参加については継続実施。保護者の参加についても、登録制にして、人数のバランスをみながら弾力的に運用する。
- ・低学年イングリッシュサマースクールについては、幼保との日程調整を事前に行う。
- ▲イングリッシュサマースクールは体育館で行ったため、非常に暑かった。机もあるため、教室で実施した方がよいのではないか。

保護者部会より（令和2年度にむけて）

① サマースクールの実施に関する改善

- ・サマースクールを後半にも開いてほしい。また、内容を事前に知らせてもらいたい。
- ・送迎に関しては、兄弟がいる場合は送り迎えではなく一緒に登下校させ、図書室で待たせるなどの対応をしてもらえるとありがたい。

② 学力向上・家庭学習習慣

- ・「ノート展」については良い取組だと思う。参観日の案内にも載せ、周知してほしい。
- ・子ども達同士でもノートを見合う機会を作ってもらいたい。

③ 情報モラル教育

- ・情報モラル教育は大切だと思うので、5・6年を対象として毎年開いてもらいたい。
- ・保護者にも関わる内容もあるため、学年PTAで開催すると良いかもしれない。

④ 外国語活動の充実

- ・イングリッシュサマースクールは、エアコンがある教室でやってほしい。

企画委員会より（令和2年度にむけて）

①サマースクールについて

- ・保護者のボランティアが多かったようなら、理科のサマースクールがすごく人数が多かったのので、来年度はそちらにボランティアの人を配置するとよいかも。
- ・理科は、1～3年の工作教室と4～6年の自由研究の相談教室とに分けるとよいかも。
- ・補充学習と上手く組み合わせられないものだろうか。

②家庭学習の習慣について

- ・家庭学習の量は、担任の意向によって変わるのか？
- ・ノート展は、続けてほしいが、親としてどんな内容の自主勉強がよいのかはよく分からない。自主学習の視点を保護者に知らせるとよいかも。
- ・漢字や計算、または、国・算・理・社の自主学習だけでなく、子ども自身が興味を持っていることを探求していく内容の自主学習等も紹介するとよいかも。

③情報モラル教育について

- ・本気に取り組む必要があるのでは・・・。
- ・保護者との連携強化、小中一貫での取組など、これから工夫していく必要あり。
- ・全学年で情報モラル教育は必要では・・・。
- ・先日の6年生の情報モラル教育での『我が家のルール』などを紹介するとよい。

—令和2年度取組案—



① サマースクール

- ・従来通り実施する。理科に関しては、1～3年の『科学工作教室』と1～6年の『自由研究相談教室』に分けて実施することを検討する。（科学工作教室に保護者ボランティアを配置するとよい。）

② 家庭学習習慣について

- ・ノート展で展示するノートを、教科のものだけでなく、興味・関心に合わせて学びを追求しているような内容のものも紹介する。（展示方法や内容などやり方のさらなる工夫）

③ 情報モラル教育について

- ・PTAと相談して、高学年は、親子ふれあい活動の一貫で実施できないか検討。
- ・小中一貫教育だからこそ、連携の強化をはかって何か取組ができないか検討。